

大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）中間評価結果表

大 学 名	筑波大学
整理番号	r - 3
事 業 名	ロシア語圏諸国を対象とした産業界で活躍できるマルチリンガル人材育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">S	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント) <p>本事業は、大学の掲げる「地球規模課題の解決や、人類のグローバルな活動を牽引できる人材」の育成という理念のもと、以前から交流のあるロシア語圏の大学に新たに大学間協定を締結した大学を加えた7カ国17大学という非常に多数の国及び大学と連携し、全学的支援を得て大規模な交流が積極的に実施されている。</p> <p>本事業の柱となる、交換留学、海外研修、実務研修など多様なスキームが着実に実行され、中間評価までの交流学生数についても、派遣・受入ともに目標を大幅に上回る実績を上げており、双方向の交流が順調に進められている点が高く評価できる。また、交換留学については派遣・受入双方の学生に対し充実した渡航前教育が行われている。今後、交流を通じて参加学生が具体的にどのような能力を修得し、本事業の掲げる「マルチリンガル人材」という人材像にどのように結びついていくのか、今後の展開が注目される。</p> <p>学生に対する支援と環境整備について、学生への情報提供、語学学習支援、経済的支援など、多面的なサポート体制がおおむね整備されている点が評価できるが、なかでも派遣学生に対する安全管理、衛生管理体制の構築に関しては、グッドプラクティスとして他大学との情報共有が望まれる。</p> <p>交流プログラムの実施にあたっては、運営上の課題が整理され、定例ミーティングを通じた議論や外部評価委員会、アドバイザー・ボードの開催により、学内外のアイデアを取り入れる体制が機能しており、また、コーディネーターと教員との適切な連携も図られていることがうかがえる。</p> <p>今後、単位互換を伴う交流プログラムの標準化、共有化については、複数の国や大学の交流を同時に推進する事業であることから、各国の制度面の違いに留意した細やかな対応と工夫が必要である。多国間の交流モデルとして他大学の参考となるような取組が期待される。</p>	